

ニュースレター

熊本乃地名

 発行者 熊本地名研究会
 会長 木崎康弘

題字 松野国策 書

地名散歩で歴史・文化探る

地元「鬼木」は苧麻に由来か

 人吉史談会
 大平代表が講演


講演する大平氏

熊本地名研究会の5月例会は31日午後1時30分から熊本市のパレアで開き、「球磨盆地の地名よもやま話」と題して、当会会員で人吉史談会代表の大平哲也氏が講演した。大平氏は、自身が生まれた人吉市の鬼木町という地名の由来は何か、と疑問を持ったことが地名への関心を持つきっかけになったといい、現在行っている郷土の歴史や文化を学ぶさまざまな活動について新聞記事を紹介しながら話した。最近では、地元の人吉新聞に「人吉球磨地名探訪」と題する連載記事も執筆し始めた。例会は

球磨弁も交えて和気あいあいのうちに進み、質疑応答も活発に行われた。この日の参加者は18人だった。

大平氏の講演要旨は次の通り。【報告者・藤野】

私が生まれた鬼木（おにぎ）は、その由来を聞いても誰も答えてくれなかった。天草と同じ音の「魚貴」があるが、このことが共通項があるのか、この地名については後で考察することにする。人吉ではいろんな場面で話をしているほか、歴史を知ろうと古文書も読んでいる。読むと、昔の地名も時々出て来て面白い。

地名研の大先輩の前田一洋さん（故人）からも多くを学んだ。前田さんは球磨弁にも詳しく、例えば「うーばんぎやー」（大雑把の意）は「大盤飼で解けるのではないかな。食べ物などを大盤振る舞いする」というような。うーばんぎやーな話だが」と言われた。それ以来、先輩の話でもそれをすぐに信じるのではなく、自分で調べることが大

地名研究会 告知板

7月行事日程

- ◆例会「焼畑のある暮らし」
五木村議会事務局・木野徹也氏
7月26日（日）午後1時30分～
パレア会議室9
- ◆勉強会「地名の研究」（柳田國男著）
7月18日（土）午後1時30分～
パレア会議室5

★地名研ブログでも
活動や関連ニュースを
発信中



事だと思うようになった。ちなみに今は「うーばんぎやー」は「大番外」ではないかと思っている。前田さんは錦町無田原の道の駅がある辺りでフイゴを拾っておられる。これは製鉄遺跡がある可能性を示すものだ。

私は5年前に高場一郎さんたちと人吉史談会を立ち上げた。歴史や民俗などを勉強する中で地名が絡んでくるところが面白い。そこで、地元の地名を探ろうと「ひとよし地名散歩」を始めた。小学校でも話す機会があるので、子供たちも興味を持って参加してくれる。企画の1つとして小路探訪も行った。人吉にはたくさん的小路があるが、これを「しゅうじ」と呼んでいる。多分「しゅうじ」が訛ったものだろう。球磨弁で焼酎を「しゅうちゅう」と発音する人がいるからだ。

人吉新聞の連載の1回目は「浪床」を取

り上げた。人吉は球磨川の北側が町人・商人の町、南側が武家の町で、馬場が付く地名が多かった。現在の灰久保町は灰久保馬場という具合だった。浪床は人吉城南にあり、読みは公式にはナミトコだが、地元の人にはナメトコと呼んでいる。古い記録には滑床とか奈免床の文字もある。ここは30万年前の加久藤カルデラの火砕流堆積物が見られる所。浪床川にはその堆積物がありツルツルと滑りやすい。掲載後に皆でここを歩いて確かめた。球磨盆地をフィールドミュージアム（野外博物館）と称して歩くことで実地に学ぶ取り組みを行っている。

さて、冒頭の鬼木だが、ここは鬼木太鼓で知られる所。読みはオニギかオニキかはつきりしない。元々は狭い範囲の小事で、田畑が多く人家は少なかった。古文書を見ると大賑とか芋煮木と表記されている。昔は大村という村の中の一集落で、ほかに木下、井口などもあった。木下のさらに下に芋園があった。私の知り合いに芋園（おぞの）という人がいるが、これも小さな集落の地名だった。こうした状況から芋煮木は無視できない。江戸時代の球磨の産物に地元で芋（お）とか麻とか呼ばれる繊維の材料芋麻（ちよま）があり、鬼木から山江村にかけて芋麻の畑があったという。芋麻の殻は焚き木に利用された事実があり、芋麻を煮た釜も山江村民俗資料館に収蔵されている。そう考えると鬼木は芋麻に由来する地名かもしれない。

次に古文書についてだが、人吉藩の家老で田代善右衛門という人がいた。20年間家老を務め、さらに弟と息子が家老に就いて合わせて48年分の日記が残されている。

（2ページに続く）